

学校経営推進費 評価報告書（1年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	a) 学校教育自己診断(生徒)における授業満足度の肯定的回答の割合向上 外部学力調査における学習習慣の定着および学力結果の向上 b) 授業アンケート(生徒)における「興味関心を持つことができた」、「知識・技能が身についた」の肯定的回答の割合向上 c) 学校教育自己診断(生徒)における「考えをまとめ、発表する機会がよくある」の肯定的回答の割合向上 d) ICT機器を用いた研究授業の実施回数増加。ICT機器を活用する教員の割合向上。
計画名	脱受身！～仕かける貝南生～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	1. 確かな学力の育成 (1) 「わかる授業、考える授業」をめざし授業力向上に取り組む。 ア 授業力向上委員会を核に相互授業観察、研究授業などの計画的実施、授業アンケートの効果的活用など、授業改善に組織的に取り組み、ICT機器を活用した効率的な授業についても研究を進める。 2. 安全安心で魅力のある学校づくり (2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己肯定感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。 ア クラブや文化祭などの生徒の自主的な活動を活性化させるために、仲間と協力して内容の充実をめざすよう教職員が支援する。
事業目標	本校の生徒は自尊心の低さゆえに、自己表現力の弱い傾向が見られる。授業中に自分の意見や考えを発表することに消極的で、自ら行動を起こすことは少ない。その打開のために、授業で発表する機会を増やそうとするが、効果を得ることができず、多数の生徒は「受身」で50分を漫然と過ごしている生徒が多いのが現状である。そこで、「ICT機器を効率的に活用した能動的授業」を推し進め、「受身」な生徒から脱却し、「仕かける」生徒へと変貌させる。特に次の4点を徹底する。 a) ICT機器を用いた視覚教材の活用に取り組む。プロジェクターの投影により、非日常な空間をつくり、その中で生徒に活動させる。「わかる!」「できた!」という喜びを生徒に与え、『できればやる』ではなく『やればできる』という意識をもった生徒を育む。 b) 板書の時間短縮を図り、実践・実験・実習等のアクティブラーニングの時間を確保し、生徒の能動的な学習時間を増やす。 c) プロジェクターを使用し、生徒によるプレゼンテーションを多く取り入れ、自ら調べて学習する姿勢をつくり、発表する力をつけさせる。 d) 「相互授業観察」、「充実した研究授業の実施」を推進し、ICT機器を効率的に活用した授業力向上に取り組む。組織的に「わかる授業、考える授業」をめざした取組みを行い、授業満足度および学力の向上を図る。さらに、生徒の自主的な活動を活性化させ、学校生活の充実を図り、学校満足度を高める。
整備した 設備・物品(数量)	電子黒板機能付 短焦点プロジェクター20台(全20教室) (2学期末に設置完了)
取組みの 主担・実施者	首席を主担とした授業力向上委員 実施者:全教員
本年度の 取組内容	・パッケージ研修支援Ⅱを活用した授業力向上(通年) ・ICT機器を活用している教員による研究授業実施(5月・9月) ・外部学力調査の結果の分析(5月・10月) ・ICT機器の活用に向けて研修の実施(9月・11月) ・ICT機器を先進的に活用している学校の視察や研究会への参加(7月・9月) ・授業アンケート結果を受けて、各教員が改善シートを作成、分析(8月・1月) ・相互授業観察および研究授業の実施(通年) ・各教員がICT機器を活用した授業教材を作成(準備) ・学校教育自己診断等の結果の分析と情報共有(2月) ・今年度の取組みに関して分析、改善に向けて検討(3月) ・授業、ホームルーム、総合的な学習の時間の中で、生徒が発表する機会を設ける(3学期)
成果の検証方法 と評価指標	a) 学校教育自己診断(生徒): 授業満足度(平成28年度56%)を60%にする。 学力調査(学力結果)1年4月から2年4月への変化(平成28年度-30.9ポイント)を-27ポイントにする。 b) 授業アンケート(12月実施): 「興味関心を持つことができた」のよくあてはまる(平成28年度27.1%)を30%にする。 「知識・技能が身についた」のよくあてはまる(平成28年度28.6%)を32%にする。 c) 学校教育自己診断(生徒)における「考えをまとめ、発表する機会がよくある」の肯定的回答(平成28年度51%)を55%にする。 d) ICT機器を用いた研究授業を2回行い、ICT機器を活用する教員の割合を60%にする。
自己評価	a) 学校教育自己診断(生徒): 授業満足度 58% (△) 学力調査(学力結果)1年4月から2年4月への変化: 4月に結果(未) b) 授業アンケート(12月実施): 「興味関心を持つことができた」のよくあてはまる 29% 「知識・技能が身についた」のよくあてはまる 30% (△) c) 学校教育自己診断(生徒)における「考えをまとめ、発表する機会がよくある」の肯定的回答 55% (○) d) ICT機器を用いた研究授業 3回、ICT機器を活用する教員の割合 52% (△) 評価指標の数値はいずれも満足とは言えない結果ではあるが、プロジェクターが設置された時期が12月になった影響もある その他の取組み 相互授業観察(計191回実施)、研究授業9回、パッケージ研修支援Ⅱを活用した授業に関する研修会5回実施等、授業力向上の取組みは順調に行えた(◎)
次年度に向けて	経営推進費で設置したプロジェクターを効率的に活用し、今後も授業力向上に向けて、学校全体で取り組む。具体的には以下、 ・授業力向上委員会が中心になり、授業観察、研究授業の実施(通年) ・外部学力調査の結果の分析(5月・10月) ・ICT機器活用研修の実施(9月・11月) ・各教科にてICT機器を活用した研究授業実施(11月) ・ICT機器を先進的に活用している学校の視察(10月) ・授業アンケート結果を受けて、教科での分析・改善の実施(8月・1月) ・各教科でICT機器を活用した授業の教材の集約、共有(2月) ・学校教育自己診断等の結果の分析と情報共有(2月) ・今年度の取組みに関して分析、改善に向けて検討(2月) また、以下の項目を指標として取り組む。 a) 学校教育自己診断(生徒): 授業満足度を65%にする。 学力調査(学力結果)1年4月から2年4月への変化を-24ポイントにする。 b) 授業アンケート(12月実施): 「興味関心を持つことができた」のよくあてはまるを33%にする。 「知識・技能が身についた」のよくあてはまるを35%にする。 c) 学校教育自己診断(生徒)における「考えをまとめ、発表する機会がよくある」の肯定的回答を60%にする。 d) ICTを用いた研究授業を4回行い、ICT機器を活用する教員の割合を70%にする。